中学生海外研修2016

オーストラリア直送レポート

Vol.12 2016.8.21　Meet until the day

●ドリップストーン校グループ／教育委員会社会教育課：林
（引率教諭）吉備中学校：西岡
●パーマストン校・ローズベリー校グループ／教育委員会社会教育課：宮地
（引率教諭）白馬中学校：熊ノ郷

【DS】いよいよ別れの時が訪れました。空港で研修生の様子を見ていると、本当の家族ように接してくれたホストファミリーとの別れを惜しみ、感謝の気持ちを伝えたり、感謝の手紙を渡したり、握手やハグを何度も交わしたり、家族として過ごす最後の時間を惜しんでいました。また、目を真っ赤にして涙を流している研修生も多くいました。いくら伝えても伝えきれないほどの感謝の気持ちを胸に、オーストラリアでの研修が終わりました。

この 17 日間のオーストラリアでの研修を振り返ってみると、ホストファミリーとの生活では、言葉の壁を感じさせないほど気さくに色々話しかけてくれたり、ビッグスマイルで研修生たちを安心させてくれました。週末には、ショッピングや観光地などに研修生を連れ出してくれました。同じ時間を過ごす中で研修生たちも次第に心を開いていき、家族の一員になることができました。また、ＤＳ校での学校生活では、ＤＳ校の生徒が話しかけてくれても、最初は緊張している事もあり聞き取れなかったことありました。また、聞き取れるようになっても、自分の思いを中々伝えることができず、もどかしそうにしている姿をみかけたこともありました。しかし、研修が進むなかで、ＤＳ校の生徒との会話の中に知らない単語などが出ても、会話の流れや状況から相手が何を話しているのかを分かるようになっていました。また、失敗を恐れずに、知っている簡単な単語を使ったり、身ぶり手ぶりで会話をできるようになりました。重要なことは、言葉を話せるか話せないかではなく、相手を理解しようとする気持ちが一番大切だということを学びました。授業中に色々教えてくれた子、休憩時に一緒にスポーツをした子、プレゼントをくれた子、またプレゼントをあげた子、一緒に喜んだり、時にふざけあい、笑い合った友だち…。言葉の壁をはねのけ、かけがえのない新しい友だちを作ることができました。

研修生たちは、オーストラリアで出会ったすべての人、起こったすべての出来事ひとつひ

とつに、かけがえのない思い出を刻むことができました。この海外研修で研修生のみなさんが過ごした日々は、みなさんの人生においては、忘れることのできない毎日だったのではないでしょうか。自分自身が現地で体験したオーストラリアの良さ、再認識した日本の良さ。学んだこと、得たこと、感じたことは、研修生一人一人違うと思いますが、自分なりに一つ一つ考えていただきたいと思います。これから先、何か大きな壁がみなさんの前に現れたとしても、日本にいては体験し得ない文化の違いを身をもって体験し、理解を深めたみなさんなら、広い視野や多様な物事の考え方で、きっと自分の力で解決できます。また、研修生のみなさんには、将来オピニオンリーダーとして、活躍してくれることを願っています。（林）

【PS】21日、ホストファミリーに連れられて空港へ集まってくる研修生達は、疲れとホストとの別れが寂しいのと、日本に帰れる安心感とが入り混じった複雑な感情を持っているように見えました。ホストファミリーともいろいろな別れがありました。ガッチリと握手を交わしてさらっとサヨナラできた子。手紙を渡し、何度もハグを繰り返してホストとともに涙を流す子、本当にさまざまでした。そんな様子を見ると、家族として、暖かく迎えてくれていたんだなぁと、私もこみ上げてくるものがありました。しかし、ゲートをくぐってしまえばみんなサバサバした様子で、ガヤガヤと話ながら、手荷物検査を済ませました。機内食の際は、さすがに英語だけの街で２週間過ごしただけあって、行きの機内とは違い、ＣＡさんとのやりとりも自信を持ってできていました。シンガポールでは、マーライオンや近代的な町並みを眺め海外研修の現地研修を終えました。シンガポールから関西国際空港までの便は夜行便なので、みんな静かに眠っていたことと思います。

関西空港へ着陸した時、「あ～着いてしもた…」という声が聞こえました。残り少ない夏休みを思っての言葉だと思いますが、非常に心に残りました。海外で過ごした２週間は、とても充実していたのだと思わせてくれる言葉としては十分でした。思い返せば、２週間前初めてパーマストンシニアカレッジへ登校しました。もちろん手探りで言葉にも自信がなく、消極的になってしまっていました。それが、授業が受ける度に友達ができ、ローズベリーミドルスクールやデュラックプライマリースクールに行かせてもらう頃には、期待に胸を膨らませながら登校できるようになっていました。研修生達の順応能力に驚かされました。校外学習なども楽しく過ごしました。慣れない環境にも体調を崩す子もなく、毎日本当に楽しそうに行程をこなしていく研修生達には本当に感心しました。もちろん英語についても、少しずつ聞き取れるようになり、コミュニケーションもどんどんとっていました。中盤以降は更に楽しく過ごしているように見えました。それでも、研修生達と離れてホストファミリーの家で一人でいる時に何かすごく寂しくなるという声もありました。そういう話を聞いた時、何か親しみを感じるというか、やっぱり中学生だなと思う安心感というか、そういった気持ちを持ちました。現地の研修は今日無事に吉備庁舎へ帰ってきて終了しましたが、まだ事後研修が終わっていません。忙しい夏休みの終盤だとは思いますが、もう少しがんばりましょ

う。また、事後研修が終わっても今年の夏のことを思い出し、これからのいろいろな局面で役立ててもらいたいと思います。（宮地）